

私たちにできること

私たちの暮らしと生物多様性は、いろいろな場面につながりっています。私たちが生物多様性の保全のためにできることはなんですか？次の中からできることを選んで、行動してみましょう。

ふれよう 自然や動植物とふれあう

自然の中で生き物とふれあうことは、地域の特色、生き物の生態や面白さを実感することができ、生物多様性のより深い理解につながります。



たべよう 地産地消を心掛ける

住んでいる地域の食材を食べれば、その土地ならではの食文化の知識が自然と身に付きます。

地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいましょう。



まもろう 生き物同士や自然と人のつながりを守ろう

生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加しましょう。

庭やベランダなどで野菜を育てたり、花壇をつくるなどにより身近なみどりを増やしましょう。



つたえよう 生き物や風景をみんなにつたえよう

生き物や豊かな自然の素晴らしさ、その感動を写真や絵、文章などで家族や友達に伝えてあげましょう。



えらぼう 生物多様性を考慮したものをえらぼう

エコラベルなどが付いた環境にやさしい商品を選びましょう。

私たちがこのような行動をとることで、生物多様性に配慮した生産者や事業者を応援することになります。



KAWASAKI
SDGs

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

自然や生き物を将来に残していくために、
生物多様性について、考えてみましょう！

生物多様性と私たち

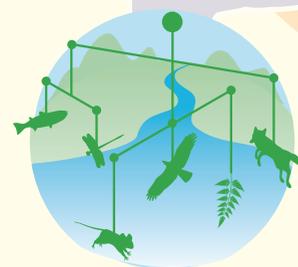
生物多様性とは、多くの種類の生き物すべてが、複雑に関わりあって存在していることを言います。

生き物はどれを取っても、自分一人、ただ一種だけで生きていくことはできません。

多くの生き物は他のたくさんの生き物と関わり、生きていくことができます。

生態系の多様性

水辺や草原、里山、丘陵地など、いろんな場所で生き物が暮らしています。



三つの「多様性」

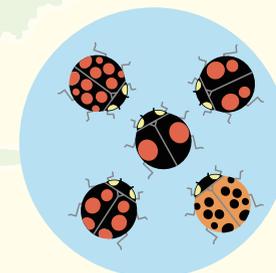
種の多様性

生き物の種類は、分かっているだけで175万種類もいるといわれています。



遺伝子の多様性

同じ生き物でも大きさや色、模様などたくさんの個性があります。



発行・編集：川崎市環境局総務部企画課

TEL：044-200-3720 e-mail：30kikaku@city.kawasaki.jp

令和4年3月発行



川崎市
KAWASAKI CITY

暮らしを支える自然めぐみ

私たちの暮らしは、豊かな自然がもたらす恵みを受け取って成り立っています。この自然がもたらす恵みは、多くの生き物が関わり合う生物多様性から得られるものであり、生物多様性が私たちのいのちや暮らしを支えています。

豊かな暮らしの源です

私たちの暮らしは、食べもの、木材、繊維、医薬品など、さまざまな生き物を利用することで成り立っています。

生命が存在するための基盤です

酸素は、藻類や植物の光合成により生みだされてきたものです。豊かな土壌は、動物の死がいや植物が分解されて形成されています。



文化や芸術なども生まれます

自然との共生により知恵や伝統が育まれ、レクリエーションなどの場や文化・芸術を生み出す源となっています。

自然に守られて、暮らしています

暴風や洪水による被害の緩和や、山地災害・土壌の流出防止、害虫発生の抑制など、私たちの暮らしを守ります。

生物多様性の危機

人間の暮らしに必要な生物多様性の損失は今も継続していると言われており、日本の生物多様性は4つの危機にさらされています。

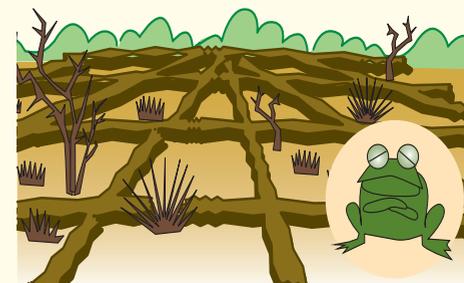
1. 人の活動による危機

開発によって生き物の生息・生育環境が破壊されたり、生き物を捕りすぎると生き物が減ってしまいます。



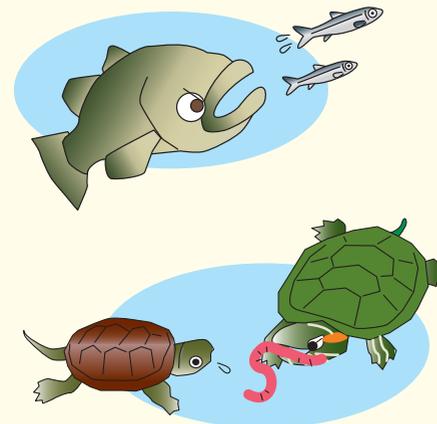
2. 自然と人の関わりが少なくなったことによる危機

お米をつくらなくなった水田や手入れをしなくなった里山は荒れて環境が悪くなり、生き物が減ってしまいます。



3. 外来種による危機

外来種は、もともといた生き物を食べてしまったり、エサを奪ってしまうなど、地域の生態系に悪影響を与えます。



4. 地球環境の変化による危機

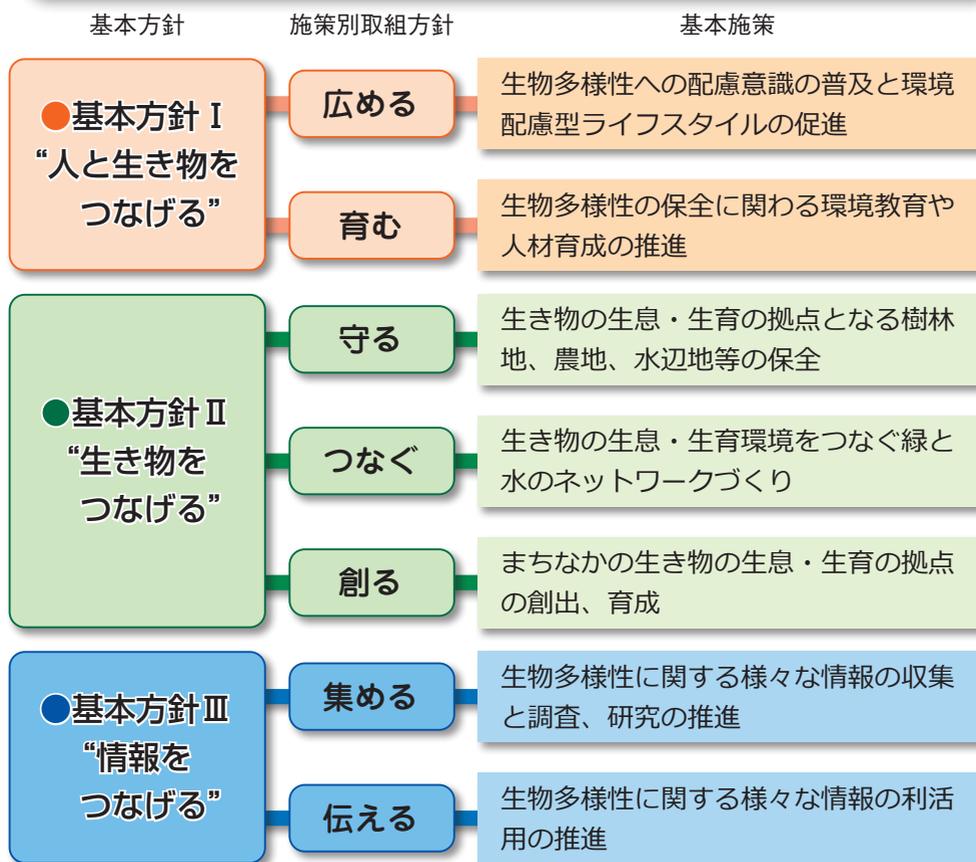
温暖化による気候変動などの環境の変化は、地球全体の生き物の生息・生育環境に影響をおよぼします。



生物多様性かわさき戦略

市では、生物多様性からもたらされる恵みを持続的に受け取り、潤いのある豊かな地域を形成していくため、「生物多様性かわさき戦略」を策定し、取組を進めています。

基本理念 「多様な緑と水 人と生き物がつながり
都市と自然が共生するまち かわさき」



「生物多様性かわさき戦略」は、こちらから（市ホームページへ）
U.R.L. <https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000134692.html>

外来生物について

外来生物は、もともとその地域に生息していなかったものが人の活動によって入ってきたもので、種類によっては、大繁殖したり、もともといた生き物とエサを奪い合うなど、地域の生態系等に悪影響を及ぼす場合があります。

外来生物が及ぼす三つの悪影響

<生態系への影響>

もともとその場所で生活していた生き物を捕食したり、エサや住みかを奪ったりすることがあります。



<人の生命・身体への影響>

たとえば、毒をもっている外来種にかまれたり、刺されたりする危険があります。



<農林水産業への影響>

外来種の中には、畑を荒らしたり、漁業の対象となる生き物を捕食したり、危害を加えたりするものもいます。



外来種予防三原則



1. 入れない

外来種を自然分布域から入れない。



2. 捨てない

飼養・栽培している外来種を捨てない。



3. 拡げない

既に野外にいる外来種を他地域に拡げない。

ペットを飼うときは

ペットは最後まで責任を持って飼うことが大切です。生き物を飼うときは、最後まで飼い続けられるかよく考えてから飼いましょう。



川崎市の取組

市では、「生物多様性かわさき戦略」に基づき、様々な取組を行っています。「人と生き物をつなげる」「生き物をつなげる」「情報をつなげる」の三つの基本方針ごとに代表的な取組を紹介します。

基本方針 1：人と生き物をつなげる

生物多様性を大切にする意識を広め、子どもたちの自然等への関心や地域で活動する人材を育むことで、人と生き物をつなげます。



自然観察会のようす



人材育成講座のようす

基本方針 2：生き物をつなげる

生き物の生息・生育環境の拠点となる自然環境を守り、それらを回廊（コリドー）で結んで生き物をつなげます。



樹林地保全活動のようす



生田緑地のようす

基本方針 3：情報をつなげる

生物多様性に関する様々な情報を集めて、それらを効果的に広く発信することで、生物多様性に関する情報をつなげます。



河川の生物調査のようす



かわさき生き物マップ